

## 優秀賞 「都市景観の日」 実行委員会 会長賞

# 尾道市景観地区（尾道・向島歴史的風致地区）

所在地 広島県尾道市

地区面積 約 200ha

応募者 尾道市

### 地区概要

本地区は、港町・商都として発展し、豪商により多くの寺社仏閣が寄進造られた。現在においても、旧家、路地の家並みなど地域特有のまちなみが色濃く残る斜面市街地、商店街には多くの歴史的建造物が点在している。

対岸の向島は、情緒ある渡船が行き交う尾道水道を形成する地域であり、現在は瀬戸内しまなみ海道へ向かう多くのサイクリストで賑わいが生まれている。

日本遺産にも認定されたこの地区は、国内外の多くの観光客が訪れる本市を代表する景観地区を形成し、近年では、空き家再生の取組、移住者、若い世代によるエリアリノベーションの取組により、まちなみ、歴史・文化資源を活かした地域再生の流れが活発化されている。

港エリアの開発や尾道駅のリニューアル等の追い風の中、瀬戸内しまなみ海道の玄関口にふさわしい景観を形成するため、海辺のプロムナードを軸として、舗装整備された小路など、既存の歩行者空間の回遊性を高めるとともに、当地区の代表的な観光スポットである千光寺公園の頂上エリアのリニューアルを進め、新たな視点場整備と連携した歩行者空間の創出等により、一層の魅力向上に取り組んでいる。

### 審査講評

天与の地形、地の利の上に刻まれた人々の暮らしは変化しながらも続き、今のまちがある。そう考えた時に、「視線の抜け」と「時の蓄積」、この二つが尾道のまちづくりを支える価値として共有されてきたように感じた。展望台とされた場所からの眺めはもちろん、急な上り下りで足元に縛られた目線が解放された時、密集した建物のあわい、駅に降り立った瞬間、視線は抜けてその先にある海、空、山が見える。この感覚が、私は今尾道にいる、という安心と幸せとなる。2度にわたるマンション開発を市民の力が押し留めたことはその証左であり、それを引き継いで景観法による景観地区指定による建物高さ制限や、屋上看板の撤去が進む。これらまちの骨格を整える方策とともに、随所に残る時の蓄積としての歴史的建物、小道の保全と活用がきめ細かく進む。民間の力が発揮される場面である。メニューとしてみれば特段新しくはない。しかしそれらを今、ここでできることとして積み重ねてきた。その成果は尾道の景観に確実に現れている。願わくば、多くの市民に支えられてきたこの景観まちづくりの意思と成果を明示的に記述し、価値の継承と今後の戦略をより確かなものとして欲しい。（佐々木）



向島から見た尾道市街地の山手斜面地



尾道駅前の緑地広場ウッドデッキ整備



浄土寺山からの夕景



尾道旧家路地